

第3グループ IM開催報告

第3グループガバナー補佐 松下 早苗（栗山RC）

第3グループのIMは「イマジン&クリエイト」というタイトルで2023年2月25日に栗山町で開催いたしました。コロナ禍ということもあり開催日程が二転三転し、ご迷惑をおかけしたにもかかわらず大勢の皆様に参加していただき栗山RC一同感謝の気持ちでいっぱいでした。

工藤会長の点鐘、伊藤IM実行委員長の歓迎の挨拶で始まりしました。当クラブの名誉会員でもある佐々木栗山町長からもロータリー活動に対し敬意と感謝の意を頂きました。

松下第3グループ松下ガバナー補佐からはロータリーは100年以上前から世界に良いことをしようという気持ちで繋がっています。きっと何かできると信じています。IMを通じて絆を深めましょうと挨拶を頂きました。

石丸ガバナーからは「IMではそれぞれのクラブの個性、楽しさが伝わります。クラブの中で何をすべきか今年は奉仕100年と世界中で決めてから節目に当たります。今日のIMで何か一つ感じ取れるものがあると素敵だと思う。」とのご挨拶を頂きました。



基調講演は「栗山高等学校女子硬式野球部による高校への波及効果と町おこし」という演題で女子硬式野球部監督の今由紀子氏を迎える予定でした。今氏は天塩町出身で2002年女子硬式野球の日本代表に選ばれています。この年の世界大会では準優勝に貢献、2003・2004年の世界大会で優勝。2006年ワールドカップではアメリカに敗れ準優勝。2008年からはワールドカップを5連覇し、一塁手でベストナイン賞、2010年は主将、2012年は打点王輝かしい成績を収めています。輝く笑顔の素晴らしい監督です。

しかし、開催日が何度も変わり今監督と日程が合わなくなってしまうピンチを迎えました。すでに皆様には演題を報告済みでこれ以上変更を繰り返したくないと悩んでいるときに工藤会長がポツリと「ロータリアンはそこに行くまでの過程に興味があるんじゃないかな」とつぶやきました。

ーピンチはチャンスですー

当クラブの会員である吉田栗山教育長に立ち上げまでの苦労話を是非話して欲しいとお願いしました。二つ返事で引き受けて頂き、栗山高校の駒井校長と二人で、掛け合いでやります。と決まったのはIMの数日前でした。

台本もなく始まった基調講演は私たちメンバーも内容はわかりませんでしたでしたがロータリーで築いた信頼と友情で不安は全くありませんでした。

多難な道のりでしたが、このお二人のポジティブなキャラクターでワクワクさせられる内容になったと思います。



吉田) 令和3年10月に教育長に就任し、すぐに女子野球部の立ち上げと介護福祉学校を軌道に乗せる命題を受け始動しました。高校は福祉をテーマにし普通科を前提とした女子硬式野球部を活かすための魅力づくりを文部省の高専一貫クラブ間開発事業に手を上げました。全国から生徒募集が可能になり、全国発信をする。「やってみなければわからない」の精神で道教委に依頼。介護の専門学校は全国で100校以上が亡くなっている現在、将来を見据えていきたい。

駒井) 令和4年4月栗山高校着任。課題は①定員割れ対策②地域との連携③新教育課程の対応の三つです。吉田教育長の考えをインターネットで知り、地域が栗山高校を大切に考えているという思いが伝わりました。教育課程を急遽変更し道外生徒募集に道を拓きました。チャンスをつかむ。専修学校の関係、福祉の学びの関係、女子硬式野球の関係。一石三鳥です。

吉田) 1年前に決まっている教育課程を変えることは大変なことで1週間しか余裕が無い中でしたが3日間でもとめました。「夢は追いつけるもの」「でも捕まえなければ意味がない」という話をさせて頂き、「夢を語りながら」二人で空知管内中学校を廻りました。

駒井) 教育長が同行してくれたことは嬉しかった。福祉が学べる普通科ということで教育長と。女子硬式野球ということで監督と行脚をしました。

吉田) 不登校の子の話があったとき「栗山高校を人生チャンスのスタートとして使ってもらえないか」と駒井校長の言葉に感銘を受けたと中学校で好意的に受け止めて頂いた。今年是实现できませんが教育は人なのだ実感しました。何事をなすにも地域に溶け込まないとなし得ません。

この二人がお互いをリスペクトしながらの二人三脚、地域を大切に巻き込んでいく姿は私たちロータリアンの心に響いたと思います。

追記：昨年度栗山高校の新入生 25名
今年度栗山高校の新入生 50名
昨年度女子硬式野球同好会 生徒 2名 監督 1名
今年度女子硬式野球部 生徒 15名 監督 1名 コーチ 1名

各クラブ発表のテーマは「ロータリアンのココロをひらく取り組み」についてです。

江別ロータリークラブ 龍田昌樹幹事

経験を積んだ先輩会員が在籍し、経験の浅い会員と和気あいあいと意見を交わしながら例会を過ごしています。コロナ禍も淡々と親睦例会を行っていました。

江別西ロータリークラブ 宍戸昭会長

例会の変更は多かったですが、ライングループで連絡を取り食品ロスもなくせました。

岩見沢ロータリークラブ 西方洋昭会長

炉辺談話例会を少人数のテーブルで、若いメンバーとキャリアのあるメンバーを交え開催しました。「メーキャップに行こう」というのにも取り組みたい。

岩見沢東ロータリークラブ 伊澤珠樹会長エレクト

白老RCに7~8人でメーキャップ訪問しました。帰りは焼肉、ウポポイ見学で好評でした。

栗沢ロータリークラブ 金山英昭会長

職業奉仕委員会と親睦委員会企業訪問兼観楓会をしました。エスコンフィールド見学では担当者に誘致から現在に至るまでの苦労話の説明を受けました。

当別ロータリークラブ 古谷陽一会長

新しいことを実践すること。ロータリーの為になる研修事業を考えていきたい。

美唄ロータリークラブ 大坪誠治会長

いろいろな機会を利用して、ロータリーの友情の輪を通じて楽しいロータリーライフを送れるようにしたい。

栗山ロータリークラブ 住友茂幹事

自分たちが楽しくなければ他人も魅力を感じません。やりがいのある活動によりココロを開き互いに理解を深め会員増強を目指します。

8クラブ発表後、石丸ガバナーから「いろいろなクラブがあって面白い。活動を引き継ぐことが大切。役員は単年度で変わるが地元との交流は年数をかけ認識してもらうのが効果的。その中でプラスアルファのことが出来ないか、それを考える事がロータリアンとしての喜びなんじゃないかと思う。」と講評をいただきました。

最後に次期IM開催地である江別ロータリークラブの中川和昭会長から江別でお会いしましょうと力強いご挨拶を頂き、菊田政徳次期ガバナー補佐からは熱い思いをお聞きました。

最後に松浦ガバナーエレクトからは今回の栗山高校の取り組みは地域に希望を育てていく基本になるものだと思います。希望をいかに育てていくか、作っていくか、見つけていくか難しい事ではありますが、それを実践することでオンリーワンチームが出来るのではないかという未来にむかっていく励ましの言葉を頂きました。

皆さんにお伝えしたい内容だったので大変長くなってしまいましたが第3グループのIMの報告とさせていただきます。



第3G 8クラブの発表



松浦GE